

三千年未来へのメッセージ

若松丈太郎

ササタケの編み籠にぎっしりと入れられ
三千年まえに貯蔵されていたという
南相馬市鹿島の鷺内遺蹟から出土した
二百つぶを超える縄文晩期のオニグルミ

出土地に隣接する鷺内稻荷の案内板には
「暖冬清水の地」と書かれている
真野川と上真野川との氾濫原による
ゆたかな自然環境に恵まれて
クリやトチやクルミの木などが

たくさん自生していたことだろう
定住をはじめた人びとのメッセージを
清らかな地下水が三千年後に届けたのだ

こどものころに暮らしたわたしの町は
べつの町ではあるけれど
祖母の家裏の川岸にクルミの木
畑のある山にはクリの木
実を拾う楽しみがあった
縄文びとの暮らしをしのぶ

縄文びとは津波が及ばない場所を知っていた
鷺内も小高の浦尻貝塚もそうだ
浦尻貝塚は縄文期をとおして営まれた
アサリ シジミ カモ シカ イノシシ
スズキ ハゼ イワシ タイ ウナギ フナ
恵まれたぜいたくな食卓だ

万葉時代になると大和びとが統治し
真野と名づけた真野の草原なまのは歌枕とされた
四十年まえの地図によると
鷺内周辺に水田と桑畑の記号がたくさんあって
ゆたかな農村をイメージできる
けれど今は桑畑はもろろん水田もほとんどない
核災を被って住み処と暮らしを奪われ
やむなく避難しているひとびとの定住地になった
多くの人は故郷への帰還をあきらめている

三千年後のひとびとにわたしたちは
どんなメッセージを届けることになるのだろうか



1960年代の鹿島
出典：地理院地図タイル